
オンライン業務共通設計書

1. 目的、適用範囲

本書は、各オンライン業務における共通的な仕様について示すものである。

2. 対象事項

(1) 入力電文長チェック

各業務において、入力電文長が業務仕様上の最大入力電文長以下であるかチェックを行う。

(2) 単項目チェック

各業務の入力項目表の入力項目 1 項目に対する入力の有無／属性／体系／コード類の使用可否（レコード存在チェック）等の妥当性のチェックを行う。チェック内容を表 1 に示す。

表 1 単項目チェックの内容

種類	チェック	チェック内容
入力有無	必須チェック	入力項目表の条件欄の左欄が「M」の場合は、当該項目に入力があること。
	入力不可チェック	入力項目表の条件欄の左欄が「X」の場合は、当該項目に入力がないこと。
	補完後必須チェック	入力項目表の条件欄の左欄が「F」の場合は、当該項目に入力がある、または、入力がない場合の補完項目欄の情報に当該項目が設定されていること。
属性	属性チェック	入力項目表の属性により、以下の属性チェックを行う。ただし、コード欄にコード名が記載されている場合及び入力条件欄に入力可能なコードが記載されている場合を除く。 an：英字（大文字）、数字、記号のいずれかであること sn：英字（大・小文字）、数字、記号のいずれかであること n：数字（小数点、マイナス記号「-」を含む）であること j：チェックしない
体系	年月日チェック	年月日が入力される項目の場合は、年月日形式（YYYYMMDD）であること。 YYYY：西暦4桁 MM：月 DD：日
	時刻チェック	時刻が入力される項目の場合は、時刻形式（HHMM）であること。 HH：時 MM：分
	数値チェック （個数、重量等）	数量が入力される項目の場合は、整数または小数であること。 右詰であること。
コード類の使用可否	コードチェック	入力項目表のコード欄にコード名が記載されている場合は、入力されたコードが、当該コードとしてシステムに登録されていること。
その他	その他のチェック	入力項目表の入力条件欄に記載されている内容にしたがってチェックを行う。 （例1）当日を含む未来日であること →システム年月日 ≤ 入力された年月日であること （例2）9：新規登録 5：訂正登録 1：貨物情報の削除 →9、5、1のいずれかであること

なお、以下の例のような場合も単項目チェックとなる。

(例 1) 処理区分・申告種別など業務内の処理を振り分ける入力項目との関連によるチェック

処理区分コード「9」の場合は、輸出者コードが入力されていること。

(例 2) 欄部の入力の有無を判断できる入力項目との関連によるチェック

欄部のコンテナ番号が入力された場合、欄部のコンテナサイズが入力されていること。

(※ 1) (例 1) 及び (例 2) の場合は、共に後者の項目略称を処理結果コードに出力する。

(3) 項目間関連チェック

各業務の入力項目表の入力項目同士の関係の妥当性のチェックを行う。チェック内容を以下に示す。

- ①入力項目表の条件欄が表 2 のような内容の場合は、項目 A が入力された時は、項目 B が入力されていること。また、項目 A が入力されていない時は、項目 B が入力されていないこと。(ただし、前述「(1) (例 2)」のような場合は、単項目チェックになる。)

表 2 入力項目表 (抜粋)

項目名	条件			
項目 A	C			
項目 B		M		

- ②欄部または繰返し項目内に、同一の項目が二重に入力されていないこと。(ただし、業務仕様により許す場合もある。)
- ③入力条件に記載されている内容のチェックを行う。

(例 3) 項目 A が特定の入力だった場合に、項目 B の入力を要するチェック

仕出港コードに「ZZZ」(バスケットコード)が入力された場合は、仕出港名が入力されていること。

(4) メールサブジェクト

各業務において、出力項目表における出力共通項目の出力条件にしたがって、出力共通項目の subject 項目に、申告番号等のメールサブジェクト（業務個別データ）を出力する。出力方法を以下に示す。

- ①出力項目表の出力条件が表3のような内容の場合は、図1のように項目Aと項目Bの間にはスペースを出力する。

表3 出力項目表（抜粋）①

項目名	出力条件/形式
出力共通項目	メールサブジェクトには以下の項目を出力 ・項目A 9桁 ・項目B 6桁

	メールサブジェクト（業務個別データ）																			
桁数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目	項目A										項目B									

図1 メールサブジェクトの出力イメージ①

- ②出力項目表の出力条件が表4のような内容の場合は、図2のように項目Cと項目Dの間にはスペースを出力しない。

表4 出力項目表（抜粋）②

項目名	出力条件/形式
出力共通項目	メールサブジェクトには以下の項目を出力 ・項目C+項目D 12桁

	メールサブジェクト（業務個別データ）																			
桁数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
項目	項目C+項目D																			

図2 メールサブジェクトの出力イメージ②

3. 特記事項

(1) エラー時の処理結果通知出力処理

各業務の入力条件に記載されているチェックに1箇所でも合致しなかった時点でエラーとし、処理結果通知出力処理を行うことを原則とするが、単項目チェックについては、単項目チェック処理内で最大5箇所までエラーを検出し、処理結果通知出力処理を行う。

(2) 入出力項目表と画面／帳票レイアウトの配置順序について

画面／帳票レイアウトにおいては、入出力項目表の以下の順序で配置されることを基本とするが、出力情報によっては例外もあるため、注意する必要がある。

- ①画面／帳票レイアウトの上の行から下の行の順。
- ②画面／帳票レイアウトの各行の左の項目から右の項目の順。

付表1 オンライン業務仕様書の記述構成

1-1. 本文

オンライン業務仕様書本文は、以下の内容に基づいて記述する。

表 1-1 オンライン業務仕様書 本文記述構成

項番	項目	記述内容
1	業務概要	◆ どのような時、本業務を使用し、また本業務を行うことによって、どのような処理が行われるのか、概要を記述する（入力タイミングを含む）
2	入力者	◆ 当業務を使用できる業種を記述する ◆ 入力者項目の記載対象とする業種及び業種が複数ある場合の業種の記述順序の基本形は以下のようにする ◆ 税関、厚生労働省（食品）、動物検疫所、植物防疫所、入管（航空）、検疫所（人・航空）、厚生局等、輸出証明書等発給機関、航空会社、航空貨物代理店、通関業、機用品業、混載業、保税蔵置場、損害保険会社、船会社、船舶代理店、CY、輸出入者、NVOCC、海貨業、バンプール、納付受託者、汎用申請者 ※「全民間利用者」は航空会社、航空貨物代理店、通関業、機用品業、混載業、保税蔵置場、損害保険会社、船会社、船舶代理店、CY、輸出入者、NVOCC、海貨業、バンプール、納付受託者、汎用申請者を示す。
3	制限事項	リミットチェックの内容を記述する
4	入力条件	入力に関するチェック条件を記述する ◆ 入力者チェック ➤ チェック条件を箇条書きで記述する ◆ DBチェック ➤ チェック対象DB単位にチェック条件を記述する ◆ 入力項目単位のチェック条件（形式や属性等）は入力項目表の該当箇所に記述する
5	処理内容	◆ システムで行う処理を記述する ◆ DB処理について、アクセス条件、参照・更新内容などを記述する
6	出力情報	◆ 当業務を行うことによって、出力される情報と出力する条件、及びその出力先を記述する ◆ 出力先が本業務を行った入力者の場合は、「入力者」と記述する ◆ 出力条件がない（無条件で出力される）場合は、「なし」と記述する
7	特記事項	◆ 特記事項がある場合に記述する ◆ 特記事項がない場合は、本項目は省略する

1-2. 入力項目表

①								条件				コード	入力条件／形式
項番	欄	項目名	ID	属性	桁	繰1	繰2	⑧					
	②		③	④	⑤	⑥	⑦	⑨				⑪	⑫
									⑩				

① 業務名（業務コード）

②『欄』

当該業務の欄部項目を示す。

先頭項目には最大繰返し回数を示す。

先頭項目以降の「*」は繰返し項目であることを示す。

③『ID』

当該項目の項目 ID を示す。

④『属性』

n : 数値 (小数含む)

an : 英数字 (英子文字を含まない)

sn : 英数字 (英子文字を含む)

j : 日本語可能 (桁数はバイト数)

コード体系については、E D I 仕様書のコード体系を参照

⑤『桁』

桁数を示す。

属性が「j : 日本語可能」の場合は、バイト数を示す。

⑥『繰1』

繰返し項目の先頭項目に数字で記入され、最大繰返し回数を示す。

繰返し項目の先頭項目以降の「*」は、繰返し先頭項目に続いて繰り返す繰返し項目であることを示す。

(例)

項目名	ID	属性	桁	繰1	繰2
項目A				2	
項目B				*	

項目A、項目B、項目A、項目Bの並びであることを示す。

⑦『繰2』

『繰1』の中で更に繰り返す項目の先頭項目に数字で記入され、最大繰返し回数を示す。

繰返し項目の先頭項目以降の「*」は、繰返し先頭項目に続いて繰り返す繰返し項目であることを示す。

(例)

項目名	ID	属性	桁	繰1	繰2
項目A				2	
項目B				*	3
項目C				*	

項目A、項目B、項目B、項目B、項目C、項目A、項目B、項目B、項目B、項目Cの並びであることを示す。

⑧『条件』

「新規登録」「訂正」「取消し」等の処理条件が複数ある場合に該当条件を示す。

⑨『区分』

M(Mandatory)：必須項目

C(Conditional)：条件付き項目

F：補完後必須

X：入力不可

-：入力無視

⑩『区分』レベル

(例)

項目名		
項目A	C	
項目B		M

下位レベルの項目は上位レベルの項目の区分に従属する。

※項目Aは条件付項目であり、入力する場合としない場合がある。

項目Bは項目Aの下位レベルにある必須項目のため、項目Aの入出力がある場合、項目Bは必須入力となる。

⑪コード

入力項目に対応するコードを示す。

⑫入力条件／形式

入力条件と形式を示す。

なお、入力条件△については、半角スペースを示す。NACCSパッケージソフトの場合は、半角スペースを入力しなくてもNACCSパッケージソフトで自動補完する。自社システム接続の場合は、自社システムで必要桁数分の半角スペースを補完する必要がある。

1-3. 出力項目表

①							条件				コード	出力条件／形式
項番	欄	項目名	属性	桁	繰 1	繰 2						
							②					
								③				

①出力情報名(出力情報コード)

②『区分』

M(Mandatory) : 必須項目

C(Conditional) : 条件付き項目

X : 必ずスペースが設定される

③『区分』レベル

下位レベルの項目は上位レベルの項目の区分に従属する。

上位レベル項目があり、下位レベル項目 M (必須項目) の場合、出力必須となる。

※参考 : 1-2. 入力項目表 ⑩ (例)

1-4. セグメント表 (EDIFACT)

セグメント表 (EDIFACT) の記述内容については E D I 仕様書を参照

1-5. マッピング表 (EDIFACT)

マッピング表 (EDIFACT) の記述内容については E D I 仕様書を参照

1-6. マッピング表 (XML)

マッピング表 (XML) の記述内容については E D I 仕様書を参照